O21 九州八代山地の中九州層群川口層から産した白亜紀古世放散虫化石

柏木健司（大阪市大）・田中　均（熊本大）・高橋　努（八千代エンジニヤリング）・
一瀬めぐみ（筑波大）・坂本大輔（熊本大）

Early Cretaceous radiolarians from the Kawaguchi Formation of the Nakakyushu Group in the Yatsushiro Mountain, Kyushu, Southwest Japan.

Kenji KASHIWAGI (Osaka City Univ.), Hitoshi TANAKA (Kumamoto Univ.),
Tsutomu TAKAHASHI (Yachiyo En. Co., Ltd.), Megumi ICHISE (Tsukuba Univ.)
and Daisuke SAKAMOTO (Kumamoto Univ.)

［はじめに］中九州層群は，先外和泉層群（田代・池田，1987）にその後の知見を加えて，田中ほか（1999）により再定義された地質単元であり，その岩相や地帯構造的位置付けについては，田中ほか（1999）に簡潔にまとめられている．本発表では，中九州層群のうち明確な示準化石を欠いていた汽水成層主体の川口層中に狭在される海成層から，年代決定に有効な放散虫化石を得たので報告する．

［地質概説］熊本県八代地域には，中九州層群に属する川口層，八竜山層，袈裟堂層および八代層が分布する．このうち，川口層は Barremian を示す八竜山層の層序的下位に位置し，鳥巣層群相当層の黒崎層（Tithonian to Berriacian）に整合的に累重することから，Valanginian to Hauterivian に位置づけられている．その岩相は，下位より礫岩および礫質砂岩に始まり，中位の中～粗粒アルコース砂岩を頻繁に挟む砂岩優勢互層を経て，上位の泥岩優勢互層に至る上方細粒化を示す．

［放散虫化石とその年代］放散虫化石は，川口層分布域の川口（Loc.1）と下深見集落付近（Locs.4, 6）から得られ，それらは中位の砂岩優勢互層中の下部に位置する．Loc.1：*Hemicryptocapsa capita*, *Pseudoaulophacus* (?) cf. *florealis*, *Sethocapsa uterculus*,. Loc.4：*Suna* cf. *hybum*. Loc.6：*Archaeodictyomitra* sp., *Hemicryptocapsa* sp., *Holocryptocanium* sp., *Praeconocaryomma* sp.. Gorican (1994), Jud (1994) および Baumgartner et al. (1995) に示される個々の化石種の産出レンジのうち，Baumgartner et al. (1995) の *H. capita* のそれを重視すれば，Locs.1, 4 の放散虫化石年代は late Valanginian to early Hauterivian と判断される．

［考察］川口層のうち，中位の砂岩優勢互層中の下部から得られた放散虫化石年代は late Valanginian to early Hauterivian を示し，それは従来の層序的位置付けに基づく推定（Valanginian to Hauterivian）に整合的である．ところで，川口層やそれに相当する南海層群中の同時代の累層間の対比は，岩相と種構成において共通性の高い汽水生二枚貝化石群集に基づく場合が多い．今後，他の示準化石（放散虫化石など）とリンクすることにより，特定の汽水生二枚貝化石群集がどの時代に多産するのかなどの情報を蓄積し，その年代論の有効性を向上させることが必要と思われる．